

昭和をおよそ10年ごとに温故創新の幕開け（昭和一桁代）、戦時下の日々（昭和10年代）、復興への足取り（昭和20年代）、村民生活の改善（昭和30年代）、経済成長のなかで（昭和40年代）、国際化にむけて（昭和50年から60年代）に分け、大きく変貌していった野沢温泉のすがたを紹介します。



大湯通り（昭和初期頃）



大湯通り（昭和32年頃）



やまびこ国体の大湯通り（昭和53年）

大湯通りは外湯の「大湯」へ向かう通りで温泉街のメイン通りで明治35年頃には湯治場として豊郷村（野沢温泉村）には毎年20万人位の人々が訪れており明治45年に豊郷村にスキーが紹介されてからスキー場としても次第に知られるようになり街並みも時代によって変わっていった。

交通案内

- ◇北陸新幹線・飯山線ご利用の場合／飯山駅下車。
野沢温泉ライナー（約25分）、または長電バス（野沢線）約40分。
バス停 野沢温泉 から約5分。
- ◇お車ご利用の場合／上信越道 豊田飯山IC から約30分。
※大型・中型バス等は当施設の駐車場までは直接お越し出来ません。

